

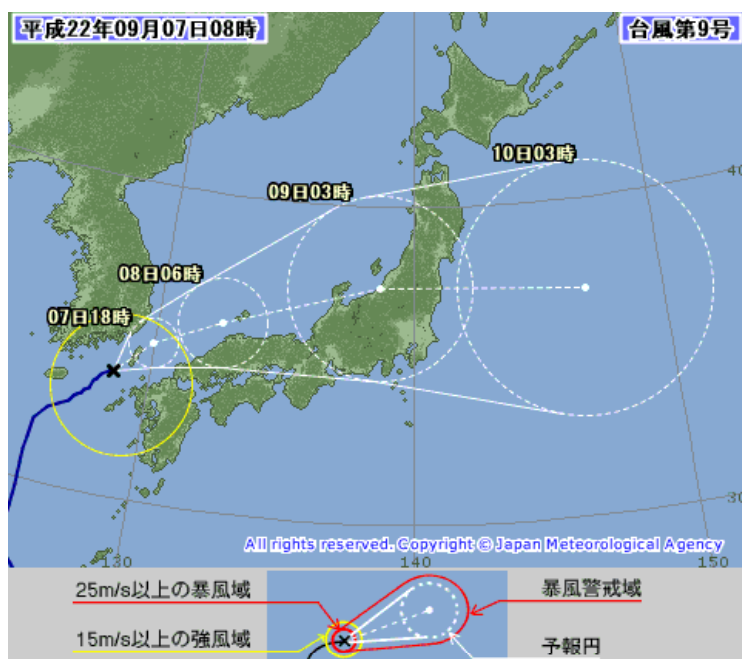
# 平成22年度いわき地方農業技術情報(第9号)



平成22年 9月 7日

福島県いわき農林事務所

## 台風9号に対する農作物等の技術対策



台風第9号は、対馬市の西南西の海上にあって、北東へ進んでいます。台風や前線の影響で、九州北部地方、北陸地方、北日本では大雨となっております。

(出典：平成22年台風第9号に関する情報第62号 平成22年9月7日8時10分 気象庁予報部発表)

**今後の台風の情報に留意し、農作物の管理には十分注意しましょう。**

### 【作物】

#### 1 水 稻

現在ひとめぼれ等早生～中生品種が成熟期を迎えており、コシヒカリも間もなく成熟期に達する見込みです。

##### (1) 事前対策

- ア 増水に備え、用排水路を点検しゴミ等を取り除いておきましょう。
- イ 台風襲来により水路が増水している場合は、危険ですので近づかないで下さい。

##### (2) 事後対策

- ア 浸水・冠水した場合は、早急に排水を図り少しでも早く穂先や葉先を出すよう努めてください。
- イ 浸水・冠水した稲は耐干性が低下しているため、排水後も田面を乾かさず、間断かんがいにより根の健全化を図りましょう。
- ウ 倒伏した場合は速やかに株起こしを実施し、穂発芽しないようにしましょう。なお、株元が損傷している場合には、隣接する株の上に穂をのせる程度としましょう。
- エ 刈り遅れによる品質低下を防ぐため、ほ場の籾の黄化率(80～90%)を目安とし

て適期刈取に努めてください。（「農業技術情報第8号 適期刈取（水稲）」を参考にしてください）

## 2 大豆

### (1) 事前対策

ア 速やかにほ場排水ができるよう明きよ、暗きよ等を点検し、ゴミ等の除去など実施しておきましょう。

イ 滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

### (2) 事後対策

ア 表面水や明きよの滞水は早急にほ場外に排水しましょう。

イ 莢の損傷を受けている場合は、降雨により紫斑病や腐敗粒の発生が多くなります。莢に損傷が多い場合は、薬剤散布を行い病害の発生を防止しましょう。

## 3 そば

### (1) 事前対策

滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

### (2) 事後対策

ア 地表面に滞水がある場合は、溝切りなどの排水対策を行いましょう。

イ 倒伏したところをコンバインで刈り取る場合は、刈り幅を狭め、刈り取り部を下げリールを前方に出して、追い刈りまたは横刈りで刈り取りましょう。刈取部に泥が入った場合は、作業を中止し泥を取り除きましょう。

## 【野菜・花き】

### 1 事前対策

#### ア 共通

(ア) ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害の常習地帯では強制排水のポンプも準備しておきましょう。

(イ) ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修しましょう。

(ウ) パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。

(エ) パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋かいを入れ、補強しましょう。

(オ) 施設では、天窓や扉があおられたり風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。

(カ) 雨よけのみのパイプハウス等施設は強風に弱いいため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。

(キ) 収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。

(ク) は種期や定植期となっているものは、台風通過後に実施しましょう。

## イ 野 菜

- (ア) 露地の葉菜類や根菜類では、べたがけ資材（不織布等）を支柱を用いて浮き掛けすることにより被害を軽減することができます。その際は、べたがけ資材が風に飛ばされないようしっかりと止めましょう。
- (イ) 露地きゅうりやインゲンは、支柱やネットにしっかりと誘引しておきましょう。アスパラガスやピーマンでは、フラワーネットと支柱、また、ナスでは支柱等を点検し、倒伏を防止しましょう。

## ウ 花 き

露地栽培では、フラワーネットの張りや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止しましょう。

## (2) 事後対策

### ア 共 通

- (ア) 停滞水は、明きょなどで速やかな排水に努めましょう。
- (イ) ネギやリンドウなど倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こすとともに、茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょう。
- (ウ) 台風通過後は天気が回復するため、吹き返しに注意しながら、施設等の換気を図りましょう。

## イ 野 菜

- (ア) 冠水した場合は、圃場への出入りによって土壌の物理性が悪化しないよう配慮しましょう。ぬかるむ場合は出入りを極力避けましょう。
- (イ) 排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の動きを回復しましょう。
- (ウ) 果菜類やマメ類で、損傷を受けた果実は早急に摘果（蒔）しましょう。ネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引し直しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。
- (エ) 冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなっていますので、直ちに適切な薬剤散布を行いましょう。また、草勢回復のため、液肥のかん注や葉面散布剤の散布を行いましょう。
- (オ) スレ果など収穫物の選果・選別には、注意しましょう。
- (カ) 冠水時間が長く回復の見通しが無い場合は、他作物への転換やまき直しを行いましょう。

## ウ 花 き

- (ア) キクやリンドウ、シンテッポウユリなど露地の花きは、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行ったり、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょう。
- (イ) ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防薬剤散布を行いましょう。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょう。

## 【果 樹】

### 1 日本なし

#### (1) 事前対策

ア 果樹棚は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行います。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょう。

イ らせんアンカーやタイヤなどを利用した棚の引き下げ、支柱による棚の引き上げにより、強風で棚が上下に動かないようにしましょう。

#### (2) 事後対策

ア 滞水している園地では、明きよなどにより速やかな排水に努めましょう。

イ 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょう。

ウ 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1～2日後に適切に薬剤散布を実施しましょう。

エ 落葉や葉の損傷が大きい場合には、その程度に応じて修正摘果を行います。

オ 台風通過後は、フェーン現象により一時的に高温になり、乾燥した風により葉焼け等が発生しやすくなります。このような場合はスピードスプレーヤ等で散水し、樹体温を下げるるとともに湿度を維持し、被害を軽減するようにします。

### 2 いちじく

#### (1) 事前対策

ア 支柱がぐらついていないか点検し、弱いところは補強してください。

イ 果実と葉の擦れにより傷果が発生しないよう、テープナー、バンド、ひも等により結果枝が揺れないよう、誘引・固定してください。また、果実と葉が直接接触している場合は、葉の一部を切ってください。

#### (2) 事後対策

ア 冠水した場合は、できる限り早く園外へ排水してください。

イ 樹が裂けた場合は、早めにひもでしばってください。

ウ 落ちた果実は病虫害の発生源となるので、拾い集めて園外に持ち出し、適切に処分してください。

エ 台風通過後は、疫病が多発するので、直ちにアミスター10フロアブル 1,000倍（収穫前日まで）またはランマンフロアブル 2,000倍（収穫前日まで）を散布してください。

## 【畜産・飼料作物】

### (1) 事前対策

ア 強風による畜舎や堆肥舎等の損壊、及び畜舎等への風雨の吹き込みを防止するため、施設の補強を行いましょ。

イ 飼料用イネは収穫適期を迎えており、飼料用トウモロコシでは収穫期を迎えつつあります。排水の悪いほ場には明きよを掘削し、速やかに排水できるようにしておきましょう。

## (2) 事後対策

- ア 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。
- イ 滞水しているほ場は、明きよなどを点検し速やかに排水しましょう。
- ウ 豪雨によりほ場で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。
- エ 飼料用イネや飼料用トウモロコシが倒伏等の被害を受け、回復が期待できない場合には、早急に収穫調製作業を行いましょう。調製にあたっては、必ず水分調整を行うとともに、乳酸菌製剤等の発酵促進剤を添加して、サイレージの品質向上に努めてください。